

画期的ノズル「スカッシュ」 MRT

糖度向上に貢献

シンプルなファイインバブル生成構造と価格で

(株)MRT(塚本耕也社長・大阪府八尾市老原2の1-19)は、農業用ファイインバブル発生ノズル「スカッシュ」の特許を取得し、販売の準備を始めている。昨今、浴室のシャワーヘッドを取り換え、特殊なバブルを放出する機器が話題となっている。その効果は異なるが、スカッシュはこの農業版といえる。同品を水道ホースに取り付け、各種作物に散水するだけで「糖度が上がる」「正型果の収穫量が増える」という主に2点の効果が得られる。

現在、市販のファイインバブル生成機器では、1立方センチの水の中に約6000個、多くて1億個のファイインバブルを生成する。塚本社長は「1億個を出す機器は大掛かりな構造かつ高額で、農家は導入しにくい。従ってまずは、作物の生育が早くならず簡単な構造で、しかも、大きくならないといった効果を見出している。しかし2億個以上の機器

はこれらに加えて「糖度が上がる」「正型果の収穫量が増える」ことに成功した。

「ファイインバブルが倍増すれば、今までの倍以上の効果が得られると判明したのは、大阪公立大学の委託実験(イチゴ)および島根県の農家との実験(トマト)を行った結果です」と塚本社長は話す。



スカッシュ。水道ホースに取り付けるだけで驚きの効果がある



スカッシュを付けて散水する島根県の野菜農家

具体的にはトマト農家(フルティカ)での実験で、機器を使わなかった2020年度が総収穫量1万4233キ、糖度8であったのに対し、機器を使った2021年産は同1万1908キ、糖度12であった。

また、イチゴ(よつぼし)に関しては、2022年に大学で比較実験を行った。その結果、機器を使わなかった場合の総収穫数163(正型果数150、奇型果数13)、糖度9に対し、機器を使った場合の総収穫数は387(正型果数364、奇型果数23)と約2.3倍、糖度は11.5を超えた。「糖度が上がり正型果数が増えれば、農家の高収益化に貢献できる」と塚本社長は話す。

その後改良を経て、2024年3月に完成したスカッシュは3億個のファイインバブルを生成するに至った。特筆は前述の効果のみならず、誰もが即座に使える同品のシンプルな構造と価格である。

塚本社長は「農業資材等の高騰で農家の皆様は苦労されている。できるだけ多くの農家にスカッシュを届けたいので、2万円前後の価格設定を考えていることを込めて、問い合わせは同社(072-992-5452)まで。」

管理機で快適草取り

宮丸アタッチメント研究所

根こそぎ除草のブルースパイラル



(株)宮丸アタッチメント研究所(宮丸雅博社長・広島県福山市明神町2の2の22)が製造・販売するプロ農家向けの草刈り・草削りアタッチメント「ブルースパイラル650」は、雑草を根こそぎ刈り取ることで草刈り作業に、生じにくく、刈り作業の煩わしさを軽減できる。刈り取った開口部(U字)に放出された草が留まらず、連続した草の巻き付きのため耕うず、連続した草の巻き付きが可能な車軸の「受け」を装着し、車軸をカバからまんカラ転しない構造で、持ち手も高い草や密集した草も巻き付きを抑える。さらに作業が少ないのも特徴で、持ち手か動による疲労軽減。同品を取り付けた管理機は、ホンダ「クボタ00」、三葉「MM2

27877(ハウスなし)シ